



まちのコイン

いつでも、このマークのあるお店や施設など巡るのもお楽しみ!!

ざぜんそうスタンプラリー

まちのコインは、「円」とは換金性のないまったくオリジナルなデジタル地域コミュニティ通貨です。普通のお金のように使えませんが、「ちょっといい体験」などを通じて地域や人がつながることができるサービスです。全国で唯一県単位で取り組んでいるのは滋賀県だけです。コイン名は「ピワコ」。JR 近江今津駅からざぜんそう群生地をめぐる6カ所のスタンプラリーで春の散策を(4/7まで)



iPhone ユーザーの方はこちら
(別ウインドウが開きます)



Android ユーザーの方はこちら
(別ウインドウが開きます)

春を告げる 湖西春蘭展



見事に咲きそろった春蘭、約 150 鉢が集まり、「湖西春蘭展」が東コミュニティセンターで開かれました。とても貴重な春蘭が並び圧巻でした。春蘭は東洋蘭として中国、韓国、日本だけに自生する蘭で、見学者は、愛好家の愛情がそそがれたひと鉢ひと鉢に見入っていました。



自治協って なに!!

現代のまちづくりは?

これまでの取り組みは、行政も地域も一方通行で、課題の共有も目的の共有も、成果の共有もありませんでした。これからの時代を考えると少子高齢化も進み、人口減少も進むことから、人もお金も限られた中で地域運営をしなければ地域の持続性は徐々に難しくなると思われます。このため、何かに取り組むためには、まず話し合いを行い、プロセスを共有し、その結論に「納得」を生み出してから具体的な行動に移すことが必要だと言われています。

私たちが抱えている課題は何か? といえば、少子高齢化や人口減少による社会構造の変化であり、課題が変わったことでまたしても「まちづくり」が目指すものが変わりました。現代の「まちづくり」の持つ意味は、「将来への備え」です。そのために、ともに話し合い、いろいろな議論を経て、人が少なくとも運営できる地域となるためにも、多くの人の「かかわり」が必要となってきます。まさに自治協の活動も、そこにあります。

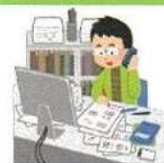


『愛する今津絵画展 2024(公募展)』

今津地域の好きな風景や人々の営みを、自分で描いてみませんか。

公募・展示など実施要領は下記まで。
実行委員会事務局 岩本典章(22-2588)

編集後記



最近、いろいろな方と今津の街に絡む話に発展することが多くなったと感じています。そんな機会がどんどん増えることが将来につながります。6年度は計画実践のスタート年度になります。事務局にもお立ち寄りください。(M)

つながろう今津

高島市今津地域住民自治協議会だより

第10号

令和6年3月19日発行

4月

アルストロメリア

花言葉は「未来への憧れ・エキゾチック・持続」などで、異国の雰囲気漂う花姿が特徴です。

発行 高島市今津地域住民自治協議会
事務局 今津町中沼一丁目4番地1
今津東コミュニティセンター
(今津公民館)
TEL 090-4927-3222
メール info@imazu-jichikyo.org
ホームページ <https://www.imazu-jichikyo.org/>



今津地域まちづくり計画策定プロジェクト



決定!

基本構想 湖のまち物語(このまちものがたり) ~ぐるぐるつながるまちづくり~

プロジェクトチームは、2022年12月に第1回会議を経て、幹事会17回、会議15回(2024.2まで)の検討をすすめてきました。

地域課題と現状を分析しながら、長期的な視野をもって、将来につながるビジョンについて議論し、住みたいと想う目指すべき今津地域の姿を描こうと検討してきました。

今津には、季節で彩りをかえるびわ湖と山々、文化が行き交った歴史、暮らしのなかに息づいた伝承や伝統的な産業、暮らす人々のつながりなど、他に誇れる大きな魅力が多くあります。

しかし、社会状況の変化などにより、新しい社会への移行期にある今、住民と共に地域課題に向きあい、今津のめざす姿を想像し、将来を創造できる魅力的なランドデザインを検討してきました。

今津地域まちづくり計画は、今から30年後であるおおむね2053年の「こんな今津であればいい」という姿をめざし、具体的な取り組みが想定できる10年程度を対象とした基本計画を立て、そこに至る5年程度の実現に向けた実践計画や施策をまとめていくものです。この実践計画を最優先に、ひとつひとつ形を積み重ねていくことが大事だと考えています。委員や多くの皆様のご意見、アイデア等を活かし、議論のプロセスを大切にしながら、より具体的な実践計画にしていくよう取り組んでいます。

今津は、びわ湖のほとりに人が住み、港を中心に湖上交通が生活を支え、地域の要衝として栄えてきた歴史ある「まち」です。日本海と都をつなぐ街道が、物や文化、人の交流をもたらした。今津は宿駅として重要な役割をはたしてきました。緑深い山々から流れる豊かな水は、大地に恵みをもたらした。食文化に彩を与え、旅人をもてなしたことでしょう。

そんな素敵なこのまちを、この先どのように語り継いでいくのか、未来へどのようにつないでいくのか、それは私たちが創るしかありません。

みんなが関わり、さまざまなつながりがつながりを生み、また広がって新たなつながりを生む。そんな未来に向かって、地域がぐるぐる回れば最高ですね。

基本構想 今津の30年後、およそ2053年の姿

基本計画 今津の10年後2033年の姿

第1期
2024~2028

第2期
2029~2033

実施計画

計画ごとに期間を設定

個別計画

「御来光の道」 北緯35度25分

日本の象徴のひとつ富士山と西の出雲大社、この2つを結ぶ太陽の道は、北緯35度25分（多少のずれあり）に位置し、ほぼ一直線上に聖地が並んでいます。伊吹山と竹生島もそのライン上にあって線を引くと、当然ですが東西をまっすぐに貫きます。

ということは春分、秋分の日には、このライン上から太陽が昇り、西の山に太陽が沈むということになります。最近、SNS上でパワースポットとして注目を集めてきている特別な「日の出」を見ようと、多くの人々が北仰浜辺りに集まっています。2023年9月23日には、優に100人を超える人が太陽の昇るのを待ちかまえていました。

今津での「太陽の道」線上には、伊吹山—竹生島—北仰—西海道遺跡—馬場—王塚古墳—日置前遺跡—日置前廃寺などが一直線に並んでいます。諸説あるものの古代人も見ていたかも知れない太陽の道が、御来光の道としてパワースポットだということもなづけます。機会を見てたどってみてはいかがでしょうか。新たな発見があるかも知れません。



3月14日、当住民自治協委員を対象に勉強会「レイラインセミナー」を三谷民宿村「よしのや」さんで開きました。

委員から、もっと詳しくレイラインについて知っておきたいとの声に、市役所今津支所の弘部亮二主監に講師をお願いし、約20人が学びました。「地元にながらまったく知らなかったこともあり、太陽信仰など古代の神秘的な世界に改めて興味をもった」「もっと誇れるレイラインを活かすことも考えていければ」など、感想を話していました。

高島高校美術部員が「通りの看板」にイラスト



歴史・文化部会では、「浜に下りるための通り」の辻子（ずし）等に看板を設置する「通りのネーミング事業」に取り組んできました。その看板の辻子や通りのイメージにあうイラストを、高島高校の美術部



子や通りのイメージにあうイラストを、高島に依頼し、このほど看板が完成しました。とても親しみやすい辻子や通りの案内に仕上がりました。浜通りから辻子にかけ、春のひと時、散策とあわせて看板にも注目してみてください。



知ってる街ネタ

みんなのふくしフォーラムで発表

やなちゃんカフェ 「あれから14年」

浜分区の福祉推進委員会は、「いきいきサロン」を続けて14年。「やなちゃんカフェ」や「ランチの日」、「高島あしたの体操」など、いろいろな活動を続けています。

3月2日安曇川「ふじのきホール」で開かれた令和5年度「みんなのふくしフォーラム」で、代表者から今まで続けられてきた思いを発表されました。



事例報告を発表する会場

「14年もたったんやなあ～最初は3人から始まり、言われたから始めた訳ではなく、言いたいこと言える仲間がいて、楽しいから続けてきたんやと思う」と。

現在は、若いメンバーも入り9人で活動。みんないろんな得意なことがあるし、出来ることを無理なくすることで、ワイワイと笑いが絶えない場所になっているという。「家にいる時より、笑ってるわ～」と和やかな雰囲気が伝わってきました。

パネルディスカッションでは、これからの活動を問われ「やっぱり、無理せんと楽しんでできていることが一番だと思う。無理して仲間を増やしたりせんで、自然に続けていける仲間ができてくれば続くと思う」「みんな歳いってきたけど、メンバーは元気やし、地域のかかわりが少なくなると出ることも減る。まだまだ、できるうちは楽しく、言いたいことも言うて続けていきます」と笑顔で話されていました。



今津中で「琵琶湖周航の歌」学習会

われは湖の子～♪

2月27日、今津中学校で琵琶湖周航の歌学習会「琵琶湖周航の歌」の魅力についてが開かれました。

旧今津町時の1997年から現高島市民会館で「琵琶湖周航の歌音楽祭 合唱コンクール」が2019年まで、23回開催されました。今津中学校は第1回から12回まで、3年生が参加し、第1回と4回で金賞を受賞したという輝かしい歴史があります。

講師は、「琵琶湖周航の歌の会」の桂田孝司さん。「今津で生まれたこの歌には、いろいろな偶然とエピソードがあり、二人の若者によって誕生した歌の背景など知ってもらい、ふるさと今津を誇りに、歌の魅力を身近に感じてもらえれば」と話しました。



会員募集しています!!

まちの宝として琵琶湖周航の歌をつなぎ、まちづくりに役立てようと活動しています。お問い合わせは、今津東コミュニティセンターまで。お気軽にどうぞ。